

おごせ 教育 Pick Up

令和3年度 越生町の学校教育

越生町では、知・徳・体の調和（生きる力）のとれた教育を実践することを目標にしています。令和3年度、重点を置いて取り組むことを紹介します。

1 確かな学力の育成（知）

中学校は、令和3年4月から、新しい学習指導要領が完全実施となります（小学校は、令和2年度から完全実施）。越生町では、新しい学習指導要領に、2学期制や土曜授業日の特色を生かし、越生ならではの教育に取り組んでいます。

(1) 授業時数の確保

越生町は、2学期制や土曜日授業

で生み出した50数時間を活用し、6時間の日を増やしたり、行事を減らしたりせずに取り組んでいます。今後もこれらの取り組みを継続して参ります。

(2) ALTの複数配置

ALT（外国人英語助手）を各非常駐配置に加え、非常勤ALTを1名配置することで、英語教育の充実を図っていきます。中学校卒業時には、英検3級以上取得50%以上を目指します。



ALT 2名が参加する英語授業

(3) 35人以下学級の継続

越生町では、平成25年から35人以下学級に取り組んでいます。令和3年度から国が小1・小2、県が小3

の35人以下学級を打ち出しています。越生町は、それ以外の学年まで35人以下で取り組み、きめ細やかな指導を行っていきます。

(4) タブレットパソコン導入

令和2年度に児童生徒に1人1台のパソコンが整備されました。ICT機器を効果的に活用し、多様な授業を展開し、学習内容の定着と学習意欲の向上を図っていきます。



パソコンを使った調べ学習

2 豊かな心の育成（徳）

不登校ゼロ、いじめ解消100%を目指して取り組んでいます。

(1) さわやか相談室・適応指導教室の充実

指導体制を充実します。適応指導教室（図書館2階）やオンライン学習を有効に行っていきます。

(2) 体験活動の充実

豊かな心を育成するため、越生町の特色を生かした、体験活動の充実を図っていきます。

3 健やかな体の育成（体）

越生町の児童、生徒とも新体力テストの結果で、毎年、県の平均を大きく上回り、大変良い成果をあげています。

(1) 生活習慣の充実

「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットを活用し、生活習慣の充実を図ります。

(2) 望ましい食習慣の確立

給食日本一の実績を生かし、食育の推進を図ります。



小学校の給食の様子

この他にも、越生小学校と梅園小学校との合同行事や合同授業の取組を行う小小連携、小中学校9年間を見通した小中一貫教育にも取り組んでいます。

また、学校運営協議会（コミュニティスクール）を充実させ、学校・家庭・地域が一体となった様々な取組を実施していきます。

越生浪漫

No. 146

「渋沢平九郎三碑」探訪



左：「渋沢平九郎自決の地」碑（拓本採取中）、右：「渋沢平九郎の墓」

1 「渋沢平九郎の墓」
 (右) 明治元歳五月廿三日為
 所事戦不克屠腹死時年貳拾貳
 (正) 澁澤平九郎之墓
 (左) 有志建之

(裏) 發起人 東京府下 大村昇
 熊谷義一 芝崎義行 金子
 一郎 黒岩村 横田佐平 世話人 大久
 保村 岡野治三郎 黒山村 浅見四郎
 ※明治7年(1874)頃建立
 一 黒山734 全洞院墓地



渋沢敬三(けいぞう) 1896年(明治29) - 1963年(昭和38) 財界人、民俗学者、日銀総裁、大蔵大臣。渋沢栄一の孫。

2 「渋沢平九郎自決の地」碑
 (右) 表題澁澤敬三書
 (正) 澁澤平九郎自決之地
 (左) 梅園村男女青年會
 發起 八基村男女青年團
 梅園村教育委員會
 八基村教育委員會
 後援 梅園村觀光協會
 黒山三瀧保勝會
 (裏) 澁澤平九郎名は昌忠
 大里郡八基村に生まる尾高
 藍香の季弟にして澁澤青淵
 の養子となり青淵渡歐の留
 守を護り後世青淵大を成す
 の素因を作れり明治元年振
 武軍を組織し選ばれて参謀
 となり飯能天覧山麓能仁寺
 に據る戦利あらず重圍を衝
 きて單身この地に到りたま
 たま藝藩の諸兵に遭遇詰ら
 れてその両三を倒し遂に抗
 し難きを知りてこの巖上に
 従容自決す時に慶應四年即
 ち明治元年五月二十三日享
 年僅かに二十二その壯烈懦
 夫をして起たしめ鬼神をし
 て哭かしむるものあり郷人



「渋沢平九郎埋首の碑」

これを讃嘆相傳へて今日に
 及び更に貞石に鑄してこれ
 を後昆に述べんとす平九郎
 家を辞するに當り絶筆あり
 因みにこれを記さん曰く樂
 樂之樂者憂人之憂食人之食
 者死人之事
 昭和二十九年三月
 埼玉縣文化財専門調査委員
 山口平八撰并書
 一 黒山9543 顔振川畔

3 「渋沢平九郎埋首の碑」
 (正) 澁澤平九郎埋首之碑
 日本学士院會員工学博士
 澁澤元治書
 (裏・上段) 明治戊辰の年
 五月二十三日振武軍は義を
 唱えて奮戦遂に衆寡敵せず
 飯能天覧山麓に敗る参謀澁
 澤平九郎ひとり黒山に到り
 藝藩の諸兵に遭遇両三を屠
 り従容として自決す享年僅
 かに二十有二その胴体は全
 洞院に葬られ首級は別に梟
 されしが里人これを憐れみ
 密かに法恩寺に埋むすなわ
 ち此の地にして後日お首さ
 まと稱されて郷人の信仰を



渋沢元治(もとじ) 1876年(明治9) - 1975年(昭和50) 電気工学者。東大名譽教授。名大初代総長。渋沢栄一の甥。

厚くせり平九郎名は昌忠尾
 高藍香の末弟にして武藏国
 下手計村に生まる澁澤榮一
 の渡欧に際しその見立養子
 となり克く責を果たすと共
 に榮一大成の淵源をなせり
 平九郎の如き眞に節に死し
 たる文武両道の傑士とい
 べく卓然たる志士の風格は
 後世の範となすに足る今茲
 同志相謀り埋首の碑を建て
 て英霊を慰むると共にその
 史實を後昆に傳えんとす文
 を余に囑せらるるに當り梗
 概を述ぶること此の如し
 昭和二十九甲辰年秋彼岸建之
 埼玉縣文化財専門調査委員
 山口平八撰書
 (裏・下段) 越生町／越生
 町教育委員會／越生町文化
 財保護委員會／越生町觀光
 協會／越生町商工会
 一 越生914 法恩寺墓地

註 碑文は原文どおり(る
 びは後補)。両渋沢氏の写
 真は、ウイキペディアよ
 り転載。

越生に散った若き志士 渋沢平九郎展

大河ドラマ「青天を衝け」主人公渋沢栄一の義弟・養子
 新政府軍と飯能戦争を戦い、敗走の途中、黒山村(現越生
 町黒山)で命を断った悲運の美丈夫の生涯をたどるパネル展

越生駅西口総合案内所(道灌おもてなしプラザ)で開催中
 午前8時30分～午後5時 入場無料

